

国語科学習指導案 本時案

単元名：

「俳句を楽しもう」

(全1時間扱い中 第1時)

授業日時 2019年6月24日(金)第5校時

授業学級 3年西組

授業会場 3年西組教室

授業者

指導者

(1) ねらい

児童(生徒)は、俳句のルールを理解して俳句を作ることができる／できるようになる。

(2) 授業のポイント

・俳句の創作を通して、感受性を豊かにする。【授業者の手立て】

(3) 展開

過程	学習活動	○授業者の主発問・◇留意点・★教材	時間
----	------	-------------------	----

<p>導入</p>	<p>1. 俳句ってなに？</p> <p>例) 子の声が 大きく響くよ 夏の空</p> <p>2. 俳句のルールを理解してほしい。</p> <p>3. 6人の実習生にこの実習を振り返っての俳句(3人)川柳(3人)を復習問題にする。 問題：俳句特有の表現や説明について、考えてほしい。</p>	<p>○「この2つの短い詩を見てもらいます。」 ○「まず、この2つの詩の共通点分かるかな？例えば、この2つの詩からどういう状況が想像できるかな？」 ◎「子供がいる！子供が叫んでいる！」 ○「それはどこの部分から分かった？」 ◎「こことここ！」 ○「じゃあ逆に違う点はどこかな？」 ◎「左は夏の空ってなってるけど、右はどこまでもってという表現になってる」 ○「じゃあさっきまでの表現をつなげたときにそこからどういう状況が分かるかな？」 ◎「左は夏の空に向かって言っている、右はずっと叫んでいるというイメージ」 ○「そう！確かにそうだね！左はどのような場面かが頭の中で想像しやすくない？じゃあ、どうしてかな？」 ◎「えーわかんないや」 ○「そうか、ちょっと難しいかな。じゃあこれを見てみて、(夏の単語が入った俳句を3つ出す)この3つに共通するものを見つけてみよう！」 ◎「あ、夏って単語が入ってる！」 ○「そうそう、そこだね。夏や夏の風っていう季節の単語が入っていると、一気に場面や風景が分かりやすくなることが分かったかな。こういう季節の単語を交えたさっきみたいなリズムの歌のことをなんていうかという、俳句と言います。」</p> <p>◇季語とは何かを説明して、なぜ季語が入るのかを説明する。5・7・5のルール(リズムを良くするため)についても理解してもらう。</p> <p>○「この6つの俳句は季語が入ってるか入ってないものかどうかで分けてみましょう。誰が考えたかを想像しつつ、季語があるかないかを考えてみましょう」 ★ 実習生6人の川柳と俳句をパワーポイントで映す。</p> <p>◇一つずつ見せていって、この俳句はどの実習生が考えたかを子どもたちに当てさせる。その後、この俳句や川柳はどのような意図があって作ったのかを説明してもらう。</p> <p>◇ここでは「川柳」という言葉は使わない。「季語を使わないもの」という説明をする。なぜなら、川柳という言葉を使うと、川柳をやりたがる可能性もあるため。自分の俳句を使って、俳句の説明をしていく。</p>	<p>0</p>
-----------	---	---	----------

	【学習課題】俳句のルールを理解して、俳句の創作を楽しむことができるようになる。		
展 開	3. 季語を考えよう。	○「この季節（夏）に関連する単語は？ 夏と言えは？」 もし分からなければ、教科書を見てみよう。 ◇スクリーン（黒板）に書く。 ★プリントにも季語を記入する欄があるので、季語を記入する。	10
	4. 俳句を考えてみよう。	○「ここに挙げた言葉を使ってもいいし、夏以外の季節の季語でも、自分が考えた季語でもいいので、考えてみよう」 ★プリントに記入 その後、黒板に児童は自分の俳句を選んで書く 終わったら、児童に俳句を発表してくれる人を募って、俳句を発表してもらおう。	17
	5. 俳句を選ぼう。	★自分の好きな俳句を選んで、その理由についてプリントに記入する。	30
【評価（対象）】俳句のルールを理解して俳句を作成することができる。他者の俳句を適切な理由をつけて説明できる。（プリント）			
終 末	6. 振り返り その後プリントを回収する。	○「今回、俳句を作るのが楽しかったという人？」 何人か手を挙げる。 じゃあ、今回俳句をつくってみての感想や友達の俳句を選んでみての感想言ってくれる人いるかな？」	40